

이 보고서는 국토통일원 73년도 상반기  
연구용역에 관한 보고서로 제출합니다

1973. 5.



국동문제연구소 연구원

박 승 기

## 年 表

1917. 1. 11. 러시아社会民主労働党 (Bolsheviks) 페트로 그라드위원회 指導下에 同地 労働者 21 万名 「스트라이크」 決行
2. 28. 페트로그라드의 労働者 2 万 5 千名 「스트라이크」 決行.
3. 11. 国会解散勅令 公布
3. 11. 臨時政府 組織에 관한 「볼세버크」 宣言
3. 12. 2 月革命 勃發
3. 13. 「모스크바에 臨時革命委員會 組織
3. 15. 「류보프」 公方班의 臨時政府 組織
3. 16. 「로마노프」 弟 退位
3. 25. 「스타린」 流刑地 「즈르한」 으로부터 「페트로그라드」 로 歸還
4. 11. 全露 「소비에트」 協議會 成立
4. 16. 레닌, 亡命先 스위스로부터 「페트로 그라드」 에 歸還
4. 17. 레닌, 「4 月테제」 를 發表
5. 11. 「페트로그라드」 에 赤衛軍 組織
5. 17. 全露 農民代表者 會議 開催
5. 18. 「멘세버크」 紙 및 社会革命先 (S.L) 出身 閣僚

- 5名을 포함한 連立內閣 組織 「케렌스키」陸相  
에 就任
6. 16. 才1回 全露소비에트大會開催(7月6日 閉會)
7. 16. 7月事變, 勞働者·兵士의 「데모」臨時政府 레닌  
逮捕를 命令
7. 21. 「케렌스키」內閣 탄생
8. 8. 非常法下에 才6回 共産黨大會 開催, 新黨規約  
採択 (16日閉會)
9. 3. 獨軍, 리가, 占領,
9. 12. 코로니노프의 反革命陰謀鎮壓
10. 25. 페트로그라드·볼세비크會議는 黨 中央委員會의 指  
令에 따라 軍事革命委員會를 創設
10. 29. 볼세비크黨 中委, 武裝蜂起를 決定
11. 6. 才2回 全露소비에트大會 開催, (9月閉會) 人民  
委員會議 組織,
11. 7. 10月革命 勃發
11. 8. 스탈린이 民統人民委員會에 選任
11. 9. 모스크바에 레닌을 議長으로 하는 소비에트 政  
府 組織
11. 9. 드로즈키가 初代 外務人民委員이 됨
11. 11. 8時間勞動制 實施 宣言
11. 23. 레닌, 交戰 各國에 대해 休戰과 平和를 提議

- 11. 27. 勞動者의 生産管理에 관한 宣言.
- 12. 1. 最高經濟會議 設置에 관한 宣言
- 12. 15. 러시아, 獨·塊·土·勃 4 國과의 休戰締結
- 12. 20. 全露 反革命 取締非常委員會(체카) 設置
- 12. 22. 러시아, 獨·塊와 프레스트·리토후스크에서 講  
和交涉 開始
- 12. 28. 銀行國有令 公布

- 1918. 1. 2. 人民委員會議, 폴란드의 獨立을 承認
- 1. 16. 러시아 社會主義聯邦소비에트 共和國 成立 宣言
- 1. 23. 才3回 全露 소비에트大會 開催, (31日閉會)
- 2. 5. 國家로부터 教會, 教會로부터 學校의 分離에 관한  
人民委員會 布告
- 2. 7. 商船隊 國有令 公布
- 2. 9. 트로즈키, 獨逸의 講和條約을 拒否
- 2. 19. 土地國有化法 公布
- 3. 3. 最高軍事會議을 創設.  
프레스토·리토후스크 講和條約을 調印.
- 3. 6. 볼셰비크黨 才7次大會에서 黨名을 「러시아」共產  
黨」으로 變更.
- 3. 19. 모스크바를 러시아·소비에트 共和國의 首都로  
決定.

- 4. 22. 労働者の義務的軍事教育令・外国貿易国當令 等を公布.  
赤軍指揮官의 選挙制를 廢止.
- 6. 3. 右翼社会党이 尼港에 시베리아臨時政府를 樹立.
- 6. 4. 크리미야에 白色政權을 樹立.
- 6. 30. 大規模經營 工場이 国有臨을 公布
- 7. 4. 才5次 全露 소비에트大会 開催. 赤軍의 創設.  
러시아 社会主義聯邦소비에트 共和国 憲法을 採  
択. ( 10日閉会 )
- 7. 16. 니코라이, 로마노프帝의 死刑을 執行.
- 8. 8. 베르린에서 핀란드와의 講和會議을 開始
- 9. 2. 革命軍事委員會를 創設
- 9. 14. 메-타法 採用
- 10. 29. 콤포소물 成立
- 11. 1. 勞農國防會議 設置 ( 1920. 12 勞動國防會議 스토  
오로 改稱 )
- 11. 13. 全露中央執行委員會, 프레스트-리토후스크條約 廢棄

- 1919. 1. 1. 白러시아 소비에트社会主義共和国 宣言
- 2. 20. 리스아니아, 러시아 社会主義 聯邦소비에트共和国에  
加盟.
- 3. 2. 콤민테른 創立大會를 모스크바에서 開催. 콤민테른

綱領을 採択 ( 6日 閉會 )

- 3. 18. 才 8回 全露共産党大会 開催 ( 23日 閉會 )
- 3. 23. 바시킴 自治共和国 成立
- 3. 30. 카리닝이 全露中央執行委員會 議長에 選出됨
- 8. 12. 少数民族 才 1回 全러시아大會를 모스크바에서 開催
- 9. 3. 시베리아軍事革命委員會, 組織
- 11. 20. 共産青年 인터내쇼날 才 1次大會를 베르린에서 開催
- 12. 5. 才 7次 全러시아소비에트大會를 開催
- 1. 15. 「시베리아」에 소련政權 樹立
- 2. 24. 런던에서 開催된 聯合國 最高會議, 對蘇經濟封鎖를 解除하고 通商關係의 開始를 決定
- 3. 4. 「콤민테른」을 創立
- 3. 29. 才 9次 러시아共産党大會를 開催
- 4. 25. 對폴란드戰을 開始.
- 4. 28. 아젤바이잔 소비에트共和國 成立
- 7. 3. 日本政府, 尼港事件 解決 때문에 北樺太의 保江 占領을 聲明.
- 7. 19. 콤민테른 才 2次大會를 페트로 그라드에서 開催  
이어서 23日 ~ 8月 7日까지 모스크바에서 統行,  
世界共産党運動 組織을 可決.

- 8. 6. 프로핑태론(勞動組合인터네쇼날) 成立.
- 10. 2. 共産靑年 인터네쇼날 才 2 次 全러시아大会 開催
- 10. 12. 对波蘭 豫備平和条約을 「리가」에서 調印
- 10. 14. 对芬平和条約을 「돌파트」에서 調印
- 11. 29. 알바니아 소비에트社会主義 共和国 成立
- 12. 22. 才 8 次 全러시아 소비에트大会開催. ( 29 日閉会 ),  
레닌의 國家電化計劃을 採択
  
- 1921. 2. 25. 그루지아 . 소비에트 社会主義共和国 成立
- 2. 26. 对 페루시아 修交条約을 調印
- 2. 28. 对아푸카니스탄平和条約을 調印
- 3. 8. 러시아 共産党 才 10 次 大会를 開催, 新經濟政策  
( NEP ) 의 採択을 可決.
- 3. 16. 对터키 修交, 和親条約 및 对英通商協定을 調印
- 3. 18. 对波平和条約을 리가에서 調印
- 5. 6. 对独通商修約을 調印
- 6. 22. 「콤민테른」 才 3 次 大会를 開催, 統一戰線 戰術  
의 採用을 決定 ( 7 月 12 日閉会 )
- 7. 10. 共産靑年 「인터네쇼날」 才 2 차 大会를 開催, 本部  
를 「베르린」 으로부터 모스크바로 移轉
- 8. 11. NEP 採用의 決定을 發表
- 8. 26. 日 · 소 交渉을 위한 大連會議를 開催 ( 1922 年 4 月  
16 日 決裂 )

10. 18. 「코리미아」自治소비에트 社会主義 共和国 誕生
11. 22. 고스프랑 (國家計劃委員會) 創設
1922. 2. 6. 체카 및 케페우의 改編決定을 公布
2. 21. 콤민테른 執行委員會 才1次 擴大總會 開催.  
( 3月4日 閉會)
3. 27. 才11次 러시아 共産党大会 開催, 스타린이 書記  
長에 選任. ( 4月2日 閉會)
4. 16. 日·소 國交 回復을 目的으로한 大連會議 決裂  
( 1921年 8月26日 開催)
6. 7. 「콤민테른」執行委員會 才2次 擴大總會 開催,  
( 11日 閉會)
9. 4. 日·소 國交回復을 企圖하였던 長春會議 開催. 同  
年 29日 決裂
10. 16. 共産青年 「인터내쇼날」 才5次大会 開催
11. 9. 「콤민테른」 才5次 大会  
「페트로그라드」에서 開催, 계속해서 「모스크바」  
에서 統行 ( 12月5日 閉會), 「레닌」出席의 最  
后의 大会
11. 10. 「프로핑테른」 才2次 大会 開催, ( 12月2日  
閉會)
11. 30. 「뭇프르」 ( 國際革命家救濟會) 創立



12. 23. 才 10 次 全러시아 소비에트 大会 開催。( 27 日 閉会) 全소비에트 社会主義 共和国들을 單一의 「소비에트 社会主義 共和国聯邦에 合併할 것을 議決
1923. 4. 12. 才 12 次 러시아 共産党大会 開催。( 25 日 閉会)
6. 12. 「콤민테른」 執行委員會 才 3 次 擴大總會 開催 ( 23 日 閉会)
1924. 1. 21. 「레닌」 死亡
1. 26. 才 2 次 全聯邦 「소비에트」 大会 開催。( 2 月 2 日 閉会)
- " 「페트로그라드」 를 「레닌 그라드로 改稱
5. 23. 才 13 次 러시아 共産党大会 開催。( 31 日 閉会)
6. 17. 「콤민테른 才 5 次 大会 開催。( 7 月 8 日 閉会)
7. 8. 「프로핑테른」 才 3 次 大会를 開催。( 22 日 閉会)
7. 12. 「콤민테른」 執行委員會 才 4 次 擴大總會 開催。( 13 日 閉会)
12. 20. 才 14 次 全聯邦 共産党大会 開催。( 新黨規約 採択. 農民問題로 「스타린」 派와 「지노버」 派, 「카메데프」 派가 對立

1925. 1. 21 日·소 基本條約 北京에서 調印
3. 21 콤민테른執行委員會 第5次 擴大 總會 開催  
(4月6日 閉會)
5. 13 第3次 全聯邦 소비에트大會 開催 (20日閉會)
10. 13 獨·소 通商條約 調印
12. 14 北華太 石油·石炭利權契約 成立
12. 15 처늘웨이 通商條約 調印
12. 18 第14次 全聯邦共産黨大會 開催 (31日 閉會),  
스탈린의 一國社會主義 建設政策을 採択
1926. 2. 17 「콤민테른」執行委員會 第6次 擴大總會 開催  
(3月15日 閉會)
4. 15 北氷洋上의 土地 및 島嶼의 蘇聯領有 宣言
4. 24 獨·蘇 中立條約 調印
7. 14 聯邦共産黨 中央委員會 및 中央統制委員會 合同委員會 開催 (23日 閉會), 「지노비에프」一派의  
処分問題 討議
10. 23 党中央委員會 및 中央統制委員會는 「지노비에프」  
의 「콤민테른」에 있어서의 活動禁止, 「트로츠키」  
의 中央委員會 政治局員 罷免, 「카-메네프」의  
同政治局員 候補의 資格 剝奪等을 決議
11. 22 「콤민테른」執行委員會 第7次 擴大會議 開催  
(12月6日 閉會), 「스탈린」은 「트로츠키」등

反幹部派를 攻擊하는 한편 一國社會主義 建設可能性을 強調

1927. 1. 23 「오 소아비아 힘」(全聯邦國防飛行化學 建設協會)  
創設
4. 18 第4次 全聯邦 소비에트大會 開催(26日 閉會)
5. 18 콤민테른執行委員會 第8次 總會 開催(30日 閉會), 戰爭의 危機問題를 討議
5. 27 英政府 對蘇斷交를 聲明
6. 3 캐나다, 蘇聯과 外交關係를 斷絶
10. 15 7시간 勞動制 貧農에 對한 特典 등을 規定하는 中央委員會의 宣言을 發表
11. 12 「트로츠키」와 「지노비에프」를 共産黨으로부터 除名
12. 2 第15次 全聯邦 共産黨大會 開催  
「지노비에프」·「카메네프」等 反幹部派의 一部에 對 黨規 服從을 要求하였으나 「트로츠키」와 「라테크」는 服從을 拒否 農業의 「콜호즈」化를 決定(19日에 끝남)
1928. 2. 9 콤민테른執行委員會 第9次 總會 開催(25日 閉會)

3. 17 「프로빈테」론 第4次大会 開催 (4月3日閉会)  
「콤민테른」 第6次大会 開催
7. 17 資本主義의 定定은 끝났다는 要旨의 宣言을  
發表
1929. 1. 25 蘇・獨間調停條約 調印
4. 23 全聯邦 共産黨 第16次 大会 開催, 第1次 5個  
年計劃을 採択 (29日 閉會)
5. 9 大小工場에 있어서의 社會主義 競爭開始에 관한  
党中央委員會의 決定 發表
5. 20 第5次 全聯邦 「소비에트」大会 開催 (28日  
閉會)
6. 5 MTS 組織에 관한 勞動國防會議의 決定을 公布
7. 3 「콤민테른」執行委員會 第10次 總會 開催.  
「브하린」을 同委員會 幹部會로부터 罷免할 것을  
決議 (19日 閉會)
1930. 2. 18 「콤민테른」執行委員會 擴大幹部會 開催 (28日  
閉會)
4. 16 英・蘇暫定通商協定 調印
6. 26 第16次 全聯邦 共産黨大会 開催 (7月13日  
閉會)

7. 1 「모로토프」가 外務人民委員에 就任
8. 15 「프롤민테른」 第5次大会 開催. (31日 閉会)
9. 20 會計年度에 歷年制 採択  
1月1日을 財政年度初로 決定
10. 21 蘇政府 蘇聯商品의 輸入을 阻止하는 諸國과의  
經濟關係에 對해 制限手段을 採択
12. 19 「모로토프」, 「루이코프」를 代身해서 連邦人民  
委員會 議長兼 勞動國防會 議長에 就任
1931. 3. 8 第6次 全聯邦 소비에트大会開催 (17日 閉会)
3. 16 蘇。土通商航海條約 調印
3. 26 「콤민테른」執行委員會 第11次 總會 開催  
(4月11日 閉會)
4. 26 日。蘇漁業暫定協定 調印
6. 24 獨。蘇中立條約 (1926年 調印) 更新
6. 24 蘇。 「아프카니스탄」間에 中立。  
不可侵條約 調印
10. 31 蘇。土修交條約 更新 議定書 調印.
12. 22 蘇。獨通商條約 調印
1932. 1. 22 蘇。芬不可侵條約 및 紛爭의 平和的處理條約  
調印

1. 30 第17次 全聯邦 共産党大会 開催.  
(2月4日 閉会)
7. 25 蘇・波不可侵條約 調印
8. 27 「콤민테른」執行委員會 第12次 總會 開催.  
資本主義의 相對的 安定은 끝났다고 認定.  
(9月15日 閉会)
- 11.23 蘇・波友好條約 締結
- 11.29 蘇・仏不可侵條約 締結
- 12.12 蘇・中國交回復協定 調印
1933. 1. 7 「스탈린」, 党中央委員會 및 中央統制委員會  
合同總會에서 第1次 5個年計劃의 總決算에 관  
한 報告
2. 15 第1次 全聯邦 「콜호즈」員・突擊隊員大會 開催
5. 2 蘇聯, 日本政府에 對해 北滿鐵道の 滿洲國에 의  
讓渡를 提議
5. 11 外務人民委員部, 北滿鐵道 讓渡 決定의 뜻을 發  
表
6. 3 蘇・波國境紛爭調整條約 調印
9. 2 蘇・伊間에 修交 및 中立條約 調印
11. 10 第2次 5個年計劃案 發表
11. 16 蘇・美國交回復에 관한 公文 交換

11. 28 「콤민테른」 執行委員會 第13次 總會 開催.  
「콧시즘」 및 戰爭의 危險과 共産黨의 任務에  
관한 「테 - 제」를 採択
11. 28 蘇。 「우루 카이」 間에 外交關係를 設定
1934. 1. 26 第17次 全聯邦 共産黨大會 開催, 第2次 5個年  
計劃案 採択. (2月10日 閉會)
2. 4 蘇。 洪間에 外交關係 設置
4. 4 「발트」 3國과의 不可侵條約을 1945年까지 延長
4. 7 蘇。 芬 不可侵條約을 1945年까지 延長
5. 5 蘇。 波 不可侵條約을 1945年까지 延長
7. 22 불가리아와 國交 回復
9. 17 알바니아와 國交回復
9. 18 蘇聯 國際聯盟에 加入
1935. 1. 28 第7次 全聯邦 소비에트大會 開催, 憲法改定을 決定
2. 11 第2次 聯邦 崙호즈員, 突擊隊員大會 開催, 農業  
「알제리」 模範定款 採択. (17日 閉會)
3. 23 北滿洲鐵道에 관한 滿。 蘇 協定을 東京에서 調印
5. 2 蘇。 仏 相互援助條約 締結
5. 16 蘇。 체코間의 相互援助條約 調印
7. 12 蘇。 벨기에間의 國交 開始

7. 13 美·蘇 通商條約 成立
7. 25 「콤민테른」 第7次大會 開催.  
蘇聯의 防衛를 위한 反파시즘 人民戰線戰術 採択
8. 21 「디미트로프」가 「콤민테른」執行委員會 議長에  
就任
8. 26 蘇·룩셈부르크間에 國交 回復
8. 30 「스타하노프」運動 시작
1936. 3. 12 蘇·蒙相互援助議定書 調印
6. 12 스탈린憲法 草案 公表
8. 19 「트로츠키」, 「지노비예프」一派의 反革命陰謀事件  
의 公判을 開始, 25日에 「지노비예프」, 「카메  
비프」等 11名에게 銃殺 執行
10. 1 英·蘇 海軍協定 成立
10. 10 北樺太의 石油採掘期限 5個年 延長協定 調印
10. 28 對外換年調整을 위해 1루블을 44 프랑으로  
改正.
11. 25 第8次 全聯邦소비에트臨時大會 開催, 스탈린新憲法  
採択 (12月1日 閉會)
12. 5 스탈린憲法 實施
12. 23 러시아共和國 新憲法 草案을 發表



1937. 1. 11 러시아共和国 新憲法 實施
3. 3 全聯邦 共產黨 中央委員會 總會 開催
3. 5 「루이코프」가 「부하린」의 黨籍剝奪을 公表
4. 29 聯邦人民委員 會議, 第3次 5個年計劃 立案을 指令
6. 11 「트하체프스키」元帥等 8名의 將校를 反逆陰謀事件  
의 혐의로 체포, 12日에 死刑 宣告.
7. 9 聯邦最高會議 選舉規約을 承認
7. 16 蘇。土國境協定 調印
8. 21 蘇。中不可侵條約을 南京에서 調印
12. 12 聯邦最高會議 第1次 選舉 實施
1938. 1. 12 聯邦最高會議 第1次會議 開催 (19日 閉會)
1. 19 聯邦 新人民委員會議 內閣 成立
2. 28 「부하린」一派 右翼 「트로츠키스트」集團의 反蘇陰  
謀事件에 관한 予審 終了의 要旨를 發表
3. 15 「부하린」 「루이코프」등 18名을 銃殺
7. 1 內務人民委員部 極東 류시코프 三等大將 (舊制) 이  
6月13日 滿領에 脫走했음을 日本側 公表.
8. 10 聯邦最高會議 第2次會議 開催  
聯邦單一國家預算制度를 決定

1939. 1. 15 勞動手帖制 實施
1. 30 第3次 5個年計劃案 發表
2. 1 共產黨規約 改正案을 發表
3. 10 第18次 全聯邦 共產黨大會 開催.  
스타린의 報告 演說  
第3次 五個年 計劃에 관한決議 採択 (21日 閉會)
3. 18 蘇聯, 獨逸의 체코 併合을 否認하는 要旨의 對  
獨覺書 傳達
4. 2 日。蘇 暫定協定 調印
5. 3 外務人民委員 「리트비노프」를 解任, 人民委員會  
議長 모로토프가 外務人民委員을 兼務
5. 25 第3次 聯邦最高會議 開催 (31日 閉會)
7. 8 「콜호즈」의 公共家畜 發展方案에 관한 決定을  
發表
7. 25 地方소비에트의 選舉法을 改正
8. 1 蘇聯邦의 英雄章을 制定
8. 23 獨。蘇 不可侵條約 成立
8. 28 第4次 聯邦最高會議 臨時會議 開催 (31日閉會)
9. 1 獨。波 開戰 第2次大戰 開始
9. 18 蘇。에스도니아間의 相互援助條約 調印
9. 18 獨。蘇間의 境界 및 友好協定 締結

10. 5 蘇·라트비아相互援助條約 調印
11. 2 第5次 聯邦最高會議, 西部 白러시아, 西部우크라이나의 併合을 可決
11. 28 蘇聯 핀란드와의 不可侵條約 廢棄
11. 30 핀란드 對蘇宣戰을 布告
12. 14 國際連盟 總會 핀란드侵略을 理由로 蘇聯의 除名을 決議
1940. 3. 12 蘇·핀란드平和條約 調印
3. 29 第6次 聯邦 最高會議 開催.  
(모로토프)가 戰爭不介入方針을 強調. 카레로. 共和國 成立確認 (4月4日 閉會)
5. 7 國防委員會 創設, 「비로시로프」元帥를 議長에 任命
6. 15 赤軍, 「발트」3國에 進駐
6. 27 赤軍, 「베사라비아」 및 北「부코비나」에 進駐.  
다음 날 28日에 「베사라비아」의 蘇聯 復歸에 關해 蘇聯은 루마니아와 協定을 調印
7. 21 「발트」3國議會, 蘇聯에의 加盟案을 採択
8. 1 第7次 聯邦最高會議開催 (7日 閉會)
8. 25 滿蒙國境協定 成立
8. 31 獨·蘇 新國境 確定業務 完了

11. 12 「모로토프」外務人民委員, 베르린訪問,  
獨·蘇會談
1941. 1. 10 獨·蘇 國境 住民交換協定을 締結
1. 12 「발트」3 國·「모르다비아」 및 「우  
크라이나」의 新便上에서 聯邦最高會議  
議員의 選舉實施
1. 20 日·蘇 漁業暫定協定 調印
2. 15 全聯邦 共産黨 中央委員會 總會 開催.  
「보즈베센스키」, 「말렌코프」, 「시키티에르바  
코프」 3 名을 政治局員候補에 選任, 「리트비  
노프」外 4 名을 党中央委員會에서 除名  
(31 日 閉會)
4. 13 日·蘇中立條約을 모스크바에서 調印
5. 7 「스타린」이 聯邦人民委員會 議長에 就任.  
「모르토프」는 外務人民委員兼 人民委員會  
議長代理가 됨
6. 22 獨逸, 對蘇宣戰을 布告
6. 22 伊太利, 對蘇戰爭狀態를 宣言
6. 22 슬로바키아, 對蘇 斷交
6. 22 「베로시로프」가 國防人民委員에 就任
6. 27 덴마크, 對蘇 斷交

- 6. 27    항가리, 对蘇宣戰을 布告
- 6. 30    스탈린을 議長으로 하는 「国家防衛委員會 設置
- 6. 30    情報局을 設置. (局長 시치엘바코프, 次長 모소후스키) 프랑스, 对蘇断交
- 7.  3    스탈린, 라디오를 통해 國民들에게 焦土戰術을 要請
- 7. 12    蘇·英相互援助·单独不講和協定 成立
- 7. 19    스탈린, 國防人民委員을 兼任
- 7. 22    美·蘇間에 武器·食料品 交換協定 成立
- 8. 12    对蘇 Credit : 供与·物資相互 供給 英·蘇 協定 成立
- 8. 25    英·蘇 兩國, 이란에 最後通牒을 보내고 兩軍은 南北으로 부터 進駐를 개시
- 9. 29    蘇·英·美 3 國은 「모스크바」에서 會談, 援·蘇物資輸送細目 討議 (10月1日 끝남)
- 10. 15    滿蒙國境確定 諸文書 調印
- 11.  6    美·蘇· 第1次武器貸与協定 成立
- 11.  6    「리트비노프」가 駐美大使에 任命됨
- 12. 28    英·蘇, 对独共同作戰 共同콤뮈니케 發表
  
- 1942.  2.  5    蘇·카나다는 領事를 交換 外交關係設定 協定 成立

3. 20 第7次 日・蘇漁業暫定 協定 調印
5. 26 「戰後에 있어서의 同盟 및 戰後의 協力・相互援助 英・蘇 協定」 調印
6. 11 武器貸与에 관한 美・蘇新協定 成立
6. 27 援蘇物資輸送 및 代金支払方法 英・蘇 經濟協定 成立
7. 30 蘇聯, 在美 弗란드政權과 外交關係 回復
8. 12 英・蘇 最高首腦會議 「모스크바」에서 開催
10. 13 海軍政治委員制 廢止 決定
10. 13 蘇聯, 오스트리아와 外交關係 設定
11. 5 「國家非常委員會」創設
11. 10 소련, 멕시코와 國交回復
1943. 2. 2 赤軍 「스타린 그라드」奪還
3. 1 「스타린」首相 元帥에 就任
3. 25 第8次 日・蘇 漁業暫定 協定을 「쿠이부이시에프」에서 朝印
5. 15 「콤민테른」 中央執行委員會 幹部會가 「콤민테른」 解散을 協議
6. 8 6月10日以後 「콤민테른」의 正式解散을 決定
6. 30 소련. 「에티오피아」와 外交關係 成立
7. 28 소. 「우루과이」 外交關係 設定

10. 19 蘇·美·英·加 4 國의 對蘇物資援助協定 成立
10. 19 美·英·蘇 3 國의 外相會議을 모스크바에서  
開催 (30日 閉會)
11. 28 「루즈벨트」·「처칠」·「스탈린」 3 巨頭 「테  
헤란」會談 (12月1日 終了)
12. 6 「테헤란」會議에서 對獨戰 遂行과 戰後協力 3  
國宣言 및 「이란」의 獨立·領土保全 保障의  
3 國宣言을 發表
12. 12 蘇·체코 友好相互援助·戰後協力條約 調印
1944. 1. 28 「레닌그라드」를 獨逸軍으로부터 完全 解放  
// 第 10 次 聯邦最高會議 開催  
構成共和國 軍隊 創設  
共和國에 對한 外交權 賦與等 決定 (2月1日  
閉會)
3. 30 北樺太 石油, 石炭利權 移讓 議定書 및 日·蘇  
漁業條約이 効力 5 個年 延長 議定書 調印
5. 12 美·英·蘇 3 國, 「헝가리」·「불가리아」·「루  
마니아」·「핀란드」 4 國에 對해 戰爭離脫勸告  
共同宣言을 發
7. 25 소·시리아 外交關係 設定
8. 5 소·레바논 外交關係 設定

9. 5 소련, 「불가리아」에 宣戰布告
9. 6 불가리아, 對蘇休戰 提議
9. 12 美·英·蘇 3 國과 「불가리아」와의 休戰協定  
成方
9. 13 소·이탈 外交關係 設定
9. 19 처핀랜드 休戰協定 成立
10. 18 美·英·蘇 巨頭 「모스크바」에서 會談
10. 25 소련, 伊太利와 外交關係 設定
11. 11 美·英·蘇 3 國政府 프랑스 臨時政權을 在런던  
歐洲諮問委員會에 招請決定 共同聲明을 發表
1945. 2. 4 「얄타」 3 巨頭會談 (11日 終了)
2. 12 「얄타」會談에 관한 「콤유니케」發表. (東西南北  
으로 하는 對獨作戰 歐洲諸問題處理大綱, 戰後 國  
際安全條障機構의 討議를 爲한 「산프란시스코」會  
議 開催등)
2. 13 처루마니아休戰協定 成立
3. 21 蘇聯, 一方的으로 蘇·土友好條約 廢棄를 通告
4. 5 소련, 日·소中立條約의 不繼續을 日本에 通告
4. 11 소·「유고슬라비아」友好 相互援助 및 戰後 協力  
條約 調印
4. 21 소·「폴란드」友好·相互援助條約 調印



6. 27 「大元帥 称号」制定  
「스탈린」이 大元帥가 됨
7. 17 美·英·소 3巨頭「베르린」會談(7月28日 以後)  
「에틀러」가 「처칠」을 代身함)
8. 3 「포스담」宣言(베르린會談 宣言)
8. 6 聯邦最高會議 臨時會議 召集  
(國際憲章과 포스담宣言을 批准)
8. 8 소련, 對日宣戰 布告
8. 8 「포스담」宣言에 參加
8. 9 蘇軍, 滿洲國境에 進駐, 攻擊
8. 14 소·華友好同盟條約 調印
8. 16 「카존」線을 基準으로 하는 소·「폴랜드」國境  
劃定 調印
8. 25 소련, 「항가리」와 國交 回復
9. 2 「스탈린」, 對日戰勝 演說放送
9. 2 9月3日을 「對日戰勝紀念日」로 制定
12. 16 美·英·소 3國外相會議를 「모스크바」에서 開催  
(極東 및 對日理事會 設置 可決)
1946. 2. 10 調印最高會議 第2次 選舉實施
2. 11 「알타」秘密協定 3國首都에서 同時 發表 (소련  
의 對日戰 參加 千島·樺太의 소련歸屬等 規定)

3. 12 第2次 聯邦 最高幹部會議 開催
4. 25 美·英·소·仏 4 個國 外相會議 파리에서 開催.  
(伊·獨 問題討議)
10. 25 第2回 聯邦 最高會議召集 (18日 閉會)
12. 10 「그로미코」外務大臣 代理에 任命, 國聯理事會  
소련代表 兼務
1947. 2. 20 第3次 聯邦 最高會議 開催, 「주타노프」聯邦  
最高會議 議長 辭任
9. 15 「스탈린」이 國防相을 辭任하고 後任에 불가늬이  
됨
11. 6. 「몰로토프」外相이 革命記念日 祝賀演說에서 「原  
子爆彈의 秘密은 이제 存在하지 않는다」고  
言明
12. 21 러시아 共和國 地方 「소비에트」選舉 實施
12. 28 「후르시 초프」가 「우크라이나」共産黨 書記長에  
再任
1948. 1. 30 第4次 聯邦最高會議 召集
3. 1 소련이 「베르린」封鎖를 實施
10. 13 소련이 「朝鮮人民共和國」을 承認

1949. 3. 4 「모로토프」外相과 「미코얀」 貿易相 等 辭任
3. 10 第5次 聯邦最高會議 召集
5. 12 「베르린」封鎖 解除
5. 23 「빠리」外相會議 開催. (獨逸·오스트리아 問題 等 討議)
7. 1 四國外相會議 「빠리」에서 開催.  
(오스트리아 講和問題 討議)
9. 23 「트루만」大統領이 소련에서 原子爆発이 있었다고 發表
1950. 2. 15 中·蘇 交渉의 結果 ① 中·蘇友好同盟, 相互援助條約 ② 長春鐵道 및 大連에 관한 協定 ③ 3億弗의 對華 크레디트 供與 協定 等の 締結을 發表
3. 12 聯邦最高會議 選舉 實施
6. 12 聯邦最高會議 召集
6. 25 北韓 과퇴군의 韓國侵略 開始
10. 5 地方 「소비에트」 選舉規定 公表
12. 17 地方 「소비에트」 選舉 實施

1951. 2. 18 構成共和國。自治共和國最高會議 選舉 實施
3. 5 4 國外相會議 「빠리」에서 開催
3. 6 聯邦最高會議 第2會期 召集
4. 17 戰後 1次 5 個年計劃 實施發表
8. 6 소련방 최고회의 議長, 「트루만」美大統領에게  
平和「메세지」 송부
10. 6 「스탈린」首相, 「프라우다」記者에게 今後에도 各  
種의 大原爆 試驗을 行할 것을 回答
1952. 3. 5 聯邦最高會議 第3會期 召集
4. 3 「모스크바」 國際經濟會議 開催
8. 20 第5次 5 個年計劃 ( 1951-55 年 ) 草案 및 改正黨  
規約 草案 發表
9. 15 中。소 共同聲明 發表 ( 長春鐵道 年内 반환 )
10. 5 第19次 소련共産黨大會 開催
10. 9 第5次 5 個年計劃 採択
11. 6 소련 共産黨機關誌 「볼셰비크」를 「공유니스트」  
로 改題
1953. 3. 5 「스탈린」首相 死亡 ( 9 日에 장례 )
3. 6 「말렌코프」首相 就任
8. 5 聯邦最高會議 第5會期 召集

- 말렌코프首相, 소련의 水爆保有를 宣言
12. 1 소련籍人과 外國籍人과의 結婚禁止令 廢止
1954. 2. 1 4 國外相會議 共同성명 發表
3. 14 第 4 次 最高會議 選舉實施
4. 1 戰後 7 회제의 國定小売價格 引下
6. 15 「후르시초프」, 소련의 水爆을 시사
7. 1 최초의 工業用 原子力 發電所 조업을 발표
7. 18 1954-55年度부터의 初等教育 男女共학을 發表
9. 11 新政治經營教程을 발간
11. 29 구주안보 8 個國 會議 「모스크바」에서 개최
12. 19 「아바크모프」 前 國防相 등 6 명을 反逆罪로 처형
12. 30 소련 - 北韓 우편·전신·전화 協定 成立
1955. 1. 11 레닌 祭를 4 月 22 日로 변경
2. 8 「말렌코프」首相 사임. 「불가닌」 新首相 임명
2. 8 「주코프」원수를 國防相에 임명.
3. 10 農業政策 轉換을 발표
5. 7 연방최고회의의 간부회의, 英·소, 仏·소 條約 폐기를 결정
5. 14 소련 및 東歐 7 個國 「바르샤」條約 조인

5. 25 연방최고회의, 國家計劃委員會를 「고스프랑」과 「고스에코노미코미샤」로 分割 改編
7. 8 소련, 世界保健機構에의 復歸를 성명
7. 18 4大國 巨頭會談 개최, 23일에 終了
8. 19 聯邦國旗令 제정
10. 8 「모르토프」外相의 自己批判을 外電 報道
11. 23 1936年 6月27日 發布의 墮胎禁止令 廢止發表
1956. 3. 24 第20次 黨大會에서 「후르시초프」가 「스탈린」을 批判했다고 外紙가 보도
3. 26 共産圈 諸國會談에서 「核合同研究所」設立을 결정
4. 17 소련, 「콤민포름」해산을 발표
5. 9 新年金法案 全文을 공표
6. 10 中等學校。高等學校의 授業料 폐지
6. 20 소。유고 首腦會談 終了
6. 28 「포즈난」市 노동자들의 폭동 발발
8. 5 타시켄트에 「核物理研究所」 設立
9. 8 「스탈린」平和賞을 「레닌」平和賞으로 改稱
10. 26 「항가리」폭동이 全國으로 확대  
新民族主義 戰線 政府 樹立
1957. 4. 25 生活必需品 등 小売物値引下 실시

5. 19  對外文化連絡 國家委員會의 設立을 발표
5. 29  「아르마·아다」核物理研究所 開設을 발표
7.  4  「말렌코프」·「모르토프」·「가가노비치」를  
  黨中央委員會 幹部會에서 해임.
8. 22  地對空, 空對空 兼用 「미사일」에 관한 발표
9. 26  「알바니아」共和國에 太陽熱 發電所 建設을 개시
10.  2  「레닌」賞의 受賞者에 대한 名譽 記章 規程을  
  제정
10.  4  세계 최초의 人工衛星 發사에 성공
11.  3  第2号 人工衛星 發사에 성공
11. 25  공산권제품 規格化 科學技術 會議 개최
1958. 1.  5  聯邦最高會議의 選舉區 일람표 발표, 연방회의 -731  
  民族會議 - 633의 選舉區를 설정
2. 18  연방 對外文化連絡協會의 대신에 소련 對外友好文化  
  連絡協會聯盟을 설치
3. 27  「후르시초프」 黨第1書記의 首相兼務를 결정
3. 31  「불가닌」 前首相을 國立銀行 總裁에 임명
4. 22  重工業部門의 7시간 및 6시간 노동제 採択을  
  결정
5. 15  第3号 人工衛星 發사
8. 10  「레닌」紀念 「불가」發電所 落成

- 10. 27 「파스테르나크」를 作家同盟에서 제명
- 11. 30 全 소勞組中央評議會, 苦情처리 개선에 관한 결정

- 1959. 1. 2 소련, 달을 向해 多段式 「로켓트」발사에 성공
- 1. 6 「라이프」紙, 지난 12月の 「후르시초프」·「험프리」 會見記를 게재
- 1. 10 소련政府, 美英仏 3個國과 더불어 第2次 世界大戦에서 聯合國側에 참가한 모든 國家 및 東·西兩獨逸에 대해 각서를 송부
- 1. 27 소련 共産党 第21次大会 개최  
「후르시초프」, 極東과 太平洋地域의 核非武装地帶를 提昌
- 2. 7 「모스크바」에서 中·소 經濟協力 擴大 協定調印
- 2. 13 카이로에서 개최중인 第2回 亞·阿 諸國民 連帶評議會 完了  
反帝·反植民主義 鬭爭強化를 결의
- 2. 23 소련勞組 第12次 大会를 「모스크바」에서 개최
- 3. 7 소련 最高會議 幹部會, 農業銀行, 公益事業銀行을 폐지
- 3. 17 소련 스포츠協會 團體聯盟 全聯邦創立會議 개최  
聯盟의 任務와 規約 결정
- 3. 27 「바르샤바」條約機構 外相會議 개최



5. 2 中·소 友好協會 第3次 全國代表大會 개최
5. 18 第3次 소련作家大會 개최
6. 22 소련 최고회의 幹部會, 소련閣僚會議의 提案에 의  
해 소련 高等省을 소련 高等·中等 專門教育省으  
로 改編
7. 16 全聯邦 勞組 中央評議會 第2次 總會
7. 23 「닉슨」美國副統領 一行이 「모스크바」의 美國  
박람회에 참석차 「모스크바」에 도착
8. 3 「아이젠하워」大統領과 「후르시초프」首相의 相互  
交換訪問을 受諾
8. 23 「타스」通信, 소련과 東歐를 잇는 4,000 km의  
送油管 建設計劃 完成을 발표
8. 28 소련政府, 核實驗 問題에 관 정부성명을 발표
9. 4 「부카레스트」에서 國際 「마르크스·레닌」主義  
研究所 代表者 회의 개최
9. 12 소련, 달을 向한 宇宙「로켓트」 第2号 발사에  
成功
9. 18 「후르시초프」首相, 유엔 總會에서 全般的 完全  
軍縮을 제의
9. 25 러시아 共和國 通産省, 月賦販賣制度 確認을 보도
9. 30 「후르시초프」首相이 北京에 도착, 모택동 등  
中共 指導者와 會談

10. 21 「후르시초프」首相이 台灣問題에 관해  
「아이젠하워」美大統領에게 서한 송부  
(中共의 대만에 대한 태도 지지)
10. 27 第5次 召集의 소聯邦最高會議 第3會期 개최
11. 12 第1次 全聯邦 소비에트 저널리스트 大會를  
모스크바에서 개최
11. 26 國民經濟에 있어서의 電力의 合理的 利用에  
관한 党中央委의 서한 발표
12. 1 「후르시초프」首相, 匈牙利黨大會에서 연설
12. 17 코메콘 第12次 代表者 大會 개최  
「코메콘」憲章 檢討
12. 22 소련 共產黨 中央委總會 개최
12. 30 「후르시초프」 平和共存, 全面軍縮, 日本의 中立化  
를 強調
1960. 1. 14 소聯邦最高會議 開催 (-15 일)  
소聯邦兵力 120 만 削減에 關한 法律과 諸國會  
議 및 政府에 대한 소聯邦最高會議의 呼訴를  
採択
1. 20 「브로시초프」幹部會 議長, 「고스로프」第1副首相  
「프로세바」最高會議 代議員 등은 「네루」首相  
의 招請에 依하여 印度訪問을 위해 「모스크바」  
出發

1. 27 美国務省, 武器貸与債務償還 交渉은 11日이후 4回의 會談으로 決裂되었다고 發表
2. 10 「후르시초프」首相, 東南아시아訪問을 위해 「모스크바」出發
2. 21 「후르시초프」首相, 「인도네시아」의 「카자마다」大学에서 " 멀지않아 「모스크바」에 諸 國民友好大学을 設立한다 "고 언명
3. 2 日。소長期貿易協定을 東京에서 調印。期限은 3年, 同期間의 對소輸出은 2億3千萬弗, 輸入은 2億3百萬弗
3. 23 「후르시초프」首相, 「드골」大統領의 招請에 依하여 「프랑스」訪問을 위해 「파리」에 到着
4. 4 소聯邦共産党中央委總會 開催, 소聯邦最高會議의 諸問題, 人事問題를 討議, 人事移動을 發表
5. 5 第5次召集 소聯邦最高會議 第5回會期 開催(-17日) 議事日程은 (1) 勞動者, 勤務員에 對한 税金撤廢에 關한 法案, (2) 勞動時間短縮에 關한 法案, (3) 最高會議幹部會令의 承認  
「후르시초프」首相, 소聯邦最高會議에서 演說, 美「스파이」機 U2가 소聯邦領空을 侵犯, 이를 墜墜시켰다고 報告.
5. 14 「후르시초프」首相一行, 東西會談參席을 위해

「모스크바」出発

5. 15 소聯, 宇宙船「보스토크」發射에 成功
6. 5 世界勞聯 第11回總評議會가 北京에서 開催,  
58 個國의 120 名 參席
6. 27 「브가레스트」의 共産國 12 個國共産黨 및 勞働者  
黨代表者會議 「콤무니케」를 發表  
平和共存, 戰爭防止可能, 帝國主義侵略戰爭에 對한  
警戒의 必要에 關해 「모스크바」宣言 및 平和  
宣言의 結論은 現情勢下에서도 適用된다.
7. 11 소聯政府, RB - 47 型機事件에 關한 抗議覺醒를  
美·英·「노르웨이」- 各 政府에 發送
8. 16 「소비에쓰가야·라도비아」紙 中共의 이름을 밝혀  
「戰爭과 平和」에 關한 見解를 非難
8. 17 中·소友好誌 「키다이」와 「友好」, 소聯에서의  
配布停止, 「키다이」는 7月11日号, 「友好」는  
7月号까지
9. 23 유엔總會에서 「후르시초프」演說, (1) 「콩고」  
문제에 關해 西方側을 맹렬히 非難, 유엔執行部  
의 改組, 植民地廢止宣言案을 提案, (2) 全面的인  
完全軍縮基本條約案을 提案, (3) 最近의 事件은  
美·소關係 改善을 確信할 수 없다.  
對獨平和條約을 首腦會談에서 協定에 이를 用意가  
있다.

10. 24 소. 印度通商交渉 終了 - 1963 년까지 貿易을 倍增
11. 2 소. 北韓間 7 億 6 千萬루블의 借款支払免除에 關한 協定을 「모스크바」에서 調印
11. 10 「모스크바」에서 81 개국의 共產黨. 勞動者黨代表者 會議 開催 ( 12 月 1 日 )
12. 24 소. 北韓 1961 ~ 67 年度 技術援助協定 및 1961 ~ 65 年 「빠다」協定을 「모스크바」에서 調印
1961. 1. 10 소 聯邦 共產黨 中央委總會 開催 ( 18 日 ) 議題는  
 ① 第 22 回 黨大會의 召集 ② 1960 年の 農業 및 畜産 國家計劃의 遂行과 農業의 加一層의 發展 措置 ③ 共產黨. 勞動者黨代表者會議의 結果에 關한 報告
2. 9 소 聯邦 最高會議 幹部會議長 「브레즈네프」, 「기니아」 방문.
2. 19 「코시킨」第 1 副首相을 團長으로 하는 소 聯邦政府 代表團, 印度向 發
4. 12 「가가린」少領이 塔乘한 「보스토크」1 号, 地球를 一周하고 無事着陸
5. 1 「마리노프스키」國防相, 「메이데이」演說에서 소 聯邦軍은 從來의 모든 것을 능가하는 더욱 完全한 戰鬪

- 手段을 가지고 있다고 陳述.
6. 21 独。소戰開始 20 周年集會에서 「후르시초프」首相  
演說 - 对独平和条約을 今年末에 調印할 것이다.  
西方側이 核實驗을 再開하면 소聯도 再開한다.
6. 24 「후르시초프」首相, 「카사프」共和國 40 周年記念  
을 당해서 「아르마。아다」에서 演說, 軍縮, 独逸  
問題에 關해 소聯의 主張을 再強調
7. 8 軍事大學卒業生 「리셉손」에서 「후르시초프」演說  
軍縮, 独逸問題에 關聯된 軍事費增額  
( 31 億 4,400 만 루블 ) 과 兵力削減의 一時停止를  
發表
7. 31 「후르시초프」首相, 「아프리카」9 個國의 「모스크  
바」駐在 大使들과의 會談에서 「비젤트」의 現情  
勢는 소聯의 直接 介入을 正當化하는 정도의 것  
은 아니라고 進술.
8. 7 「후르시초프」首相, 「테레비」放送 - 西方側의 主張  
에 反論하고 独逸과 「베르린」問題의 重要性을  
力說, 全 國民의 奮起를 促求
8. 30 核實驗再開에 關한 소聯政府 聲明發表
9. 13 國際議會同盟 第 50 回會議에 對해 「후르시초프」  
書翰發送 - 交渉이 对独平和条約의 遲延에 利用  
되지 않을 것을 考慮, 「소비에트」政府는 同問題

- 에 關한 交渉 「테이블」에 앉을 用意在 있다.
10. 5 歐洲平和行進者, 「모스크바」訪問, 「모스크바」大學  
生 騷擾
10. 7 소聯政府, 「아랍·시리아」共和國를 承認.
10. 16 소聯共産黨 第22回大會 開催(31日) 80個國  
共産黨代表 參席
10. 17 「후르시초프」第1書記, 中央委員會報告에 關한 演  
說 - 平和共存路線을 再確認, 「알바니아」勞動黨  
指導部를 非難
10. 30 소聯共産黨大會, 「스피리드노프」의 提案에 따라  
「스탈린」의 遺體撤去에 關한 決議 採択
12. 11 소聯外務省, 「알바니아」와의 外交關係斷絶을 發表
1962. 1. 6 소聯·「인도네시아」協定調印 - 武器購買를 爲한  
4億의 借款을 供與
1. 25 소聯長官會議 附屬 中央統計局, 1960年度 소聯國民  
經濟發展國家計劃 遂行実績發表. 工業總生産高는  
1959年보다 10% 增加, 國民所得概算 1,440億루블  
人口概算은 2億1,600만명
2. 6 第5回 日·소漁業交渉, 東京에서 開催
2. 8 「모스크바」에서 「시베리아」의 「바이칼」湖까지  
의 5,400 km 이상의 「시베리아」橫斷鐵道の 電化

가 完成되었다고 報道

2. 22 소聯·北韓간 1961年度 商品交易議定書를 「모스크바」에서 調印
3. 2 소聯이 「아랍」聯속에 「아스완·하이·「댐」完成을 援助하는 協定批准書 交換
3. 3 「비라이」製鉄所 完成에 關한 소聯·인도 共同 「콤무니케」에 調印
4. 7 소聯·中共間 1961年度 商品交易議定書를 「모스크바」에서 調印
4. 27 「카사부랑카」에서 第17回 國際見本市 開催.  
소聯 등 23個國 出品
5. 19 英國通商産業博覽會 「모스크바」에서 開催
5. 20 第5回 日·소漁業交渉妥結.
6. 19 소·中共 經濟協力問題에 關한 諸協定·科學技術協力 問題에 關한 諸協定을 調印
6. 27 「코메콘」貿易委員會會議, 「모스크바」에서 開催 (28日)  
中共·北韓·몽고·越盟에서 「옵서버」로 出席
7. 3 유엔 소聯代表部, 소聯은 AA 「라틴아메리카」의 20個國에 援助를 提供하고 있으며 信用供與總額은 24億非이라고 發表
7. 6 소聯이 北韓에 經濟·技術援助를 提供하는 協定을



- 「모스크바」에서 調印
8. 4 소聯에 依한 「아스완·댐」 特殊工事 施行契約을 「카이로」에서 調印
8. 22 소聯·美國, 直通空路開設協定이 美國務省에서 假調印했다고 報道.  
美側, 現國際情勢를 감안하여 調印拒否.
9. 7 「코메콘」經濟問題常設委員會 定例会議, 「모스크바」에서 開催( 9 日), 國際分業, 1980 년까지의 各國經濟計劃調整問題 審議
10. 6 「에메리아노프」 소聯原子力委員會議長과 「바바」印度原子力委員長間에 소聯·印度原子力平和利用에 關한 相互援助協定 調印
11. 4 「모스크바」- 「자칼타」直通空路設置協定을 「자칼타」에서 調印했다고 報道
11. 10 소聯이 東獨의 鐵鋼業과 火力發電所建設에 技術援助를 提供하는 두 議定書를 「모스크바」에서 調印
12. 19 소聯, 中共, 1962 年度貿易交涉을 「모스크바」에서 開始
12. 22 소聯, 「오스트리아」, 1962 年度 相互商品提供議定書를 「빈」에서 調印

1963. 1. 12 「소포레프」 소聯外務次官과 「로버트」駐소英國大使, 「英國」誌 「로시아」語版의 소聯內配布에 關한 協定에 대해 覺書交換
2. 1 「모스크바」의 諸國民友好의 집에서 中·소友好同盟相互援助條約 調印 11周年을 祝賀
2. 12 소·中共友好協會會長, 소聯最高會議幹部會員 「안드레에프」, 中·소友好協會代表團長 張蔭와 會見
2. 19 500 名의 美國觀光客, 「오렘사」에 入港
3. 17 現行의 美·소科學·技術·教育·文化部門 交換協定에 對해서 소聯科學「아카데미」와 American Committee of Recognizing Society 의 사이에 社會倫理學에 對한 講議·「세미나」·科學研究를 위한 學者交換에 關한 議定書에 調印
3. 29 美國人의 「시베리아」·「구르시아」地方 旅行制限을 緩和한다고 報道.
4. 27 美國에서 開催中인 世界「그리스도」敎 協議會會議席上에서 소聯의 「알렉세이·그리샤」正敎會 總主教, 同協議會에의 正式加盟을 申請
5. 10 소聯 5 代出版物, 全世界의 靑年을 向해 「앙케트」 出題.  
平和의 問題·軍縮問題·靑年의 目的等을 質問
5. 20 「런던」에서 英·소原子「에네르기」平和利用協定을

調印

6. 17 「후르시초프」首相, 「체코」의 「프라하」에서 開  
催中인 世界「그리스도」教 平和擁護大會에 「平和  
에의 寄与를 期待한다」는 「멧세지」發送
6. 19 350名의 觀光客을 태운 美國船 「알젠티나」号,  
「레닌그라드」에 入港
7. 9 第2回 「모스크바」國際映画祭 開催.  
「후르시초프」等 參加
7. 25 世界青年 「포람」대회 開催.  
소聯代表 「레스리니코프」開會宣言.
8. 25 英國의 「로시아」語 教授團, 「모스크바」到着.  
한편 「소聯」의 中等學校 英語教師團, 「런던」到着
8. 31 美·소關係研究所, 「모스크바」에 新設.
10. 7 소聯科學者 「알렉세이·골프」, 「오란다」에 亡命
11. 30 「후르시초프」首相, 「로마」教皇에게 誕生日을 祝  
賀하는 「멧세지」發送
12. 15 第5回 世界勞組大會 閉幕.  
最終全體會議에서 行動綱領 可能
12. 25 「크레믈린」宮殿에서 「이메오르기」活動問題에 關  
해 全 소會議 開催
12. 28 소聯과 東獨, 原子力平和利用共同研究에 關한 協定  
을 調印